

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専門学校麻生工科自動車大学校		平成20年3月31日	野見山 秀樹		〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-8-28 (電話) 092-433-0634		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日	麻生 健		〒820-0018 飯塚市芳雄町3番83号 (電話) 0948-25-5999		
目的	自動車技術の高度化が進む中、常に新しい情報を取り入れ、認証工場の整備主任者としての責務を果たせることを目的とし、国家二級ガソリン自動車整備士、国家二級ジーゼル自動車整備士、国家二級二輪自動車整備士を養成する。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	工業専門課程	2級自動車整備科		平成22年文部科学大臣 告示第30号	—		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2	年 昼間	1890	634	0	1256	0	0
生徒総定員		生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数
270 人の内数		199 人の内数		12 人の内数	10 人の内数		22 人の内数
学期制度	■前期:4月1日～8月31日 ■後期:9月1日～3月31日		成績評価		■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う		
長期休み	■学年始:4月1日～4月11日 ■夏季:8月3日～9月13日 ■冬季:12月22日～1月11日 ■学年末:1月30日～3月31日		卒業・進級条件		履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。		
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 補講の実施、休学、留年		課外活動		■課外活動の種類 ボランティア活動 ■サークル活動: 有		
就職等の状況	■主な就職先、業界等 自動車ディーラー、自動車整備業界 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 98.9% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等		2級ガソリン自動車整備士 2級ジーゼル自動車整備士		
中途退学の現状	■中途退学者 18名 平成28年4月1日時点において 在学者 222名 平成29年3月31日時点において 在学者 206名 ■中途退学の主な理由 学習意欲の喪失、単位未取得、出席不良		■中退率 8.1% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)		■中退防止のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルに沿った細かな面談の実施		
ホームページ	http://www.asojuku.ac.jp/acet/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

電子装置の採用等、自動車の新技術の普及と将来的には、低公害車の普及による更なる高度整備技術革新の進展が待っている状況のなか、認証工場の整備主任者としての責務を果たすことを目的とし、長期休暇等でのインターンシップや企業訪問等を行うなかで、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向を的確に把握し分析し、基礎実習はもとより、正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力をつける。また国土交通省の指針に合わせた「三級自動車整備士」「二級自動車整備士」の内容にあわせ、整備業界で即戦力として活躍できる整備士としての基礎をしっかりと学び、二年間で二級自動車整備士取得(ガソリン・ジーゼル)を目指していく。編成委員会を適宜開催し授業内容等について確認を行うとともに、企業等より実習の授業及び教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。また、インターンシップ時等に企業訪問を行い、企業からの要望を伺い教育に生かしていく。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とする。

委員会は、次の各号に掲げる事項を審議し、会議の結果をカリキュラム会議に報告するものとする。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

カリキュラム会議は、同条第1項の結果を踏まえ、カリキュラム等の検討を行う。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
岸原 武志	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 指導部長	H28.11.1~H29.10.31	①
堤 直樹	福岡トヨタ自動車株式会社 人事部長	H28.8.1~H29.7.31	③
坂口 哲也	福岡トヨタ自動車株式会社 サービス部長	H28.11.1~H29.10.31	③
野見山 秀樹	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長		
安部 倫太郎	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行		
小串 浩之	専門学校 麻生工科自動車大学校 校長代行補佐		
永江 貴史	専門学校 麻生工科自動車大学校 主任		
小金丸 清	専門学校 麻生工科自動車大学校 教員		

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①~③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回を原則とし開催

6月に1回 前年度カリキュラムの課題について 9月に1回 次年度カリキュラムの説明(開催日時)

第1回 平成28年6月23日 15:00~17:00

第2回 平成28年9月2日 15:00~17:00

平成29年度

第1回 平成29年6月22日 15:00~17:00 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

1. 学習指導

(委員意見)①インターネットを利用した学習指導してはどうか

②法令に力を入れる必要あり

(活用状況)①eラーニングコンテンツ作成、使用

②法令教材の製作

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業は学生に対し、現在の現場での実践していること及び必要とされることを踏まえた実習を行うことで、新しい電子制御機構や現在の整備作業の傾向に合わせた基礎実習はもとより、国土交通省の指針に合わせた正しい診断技術をも含めた整備及び検査ができる力を学習させ即戦力としての人材育成を行う。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

現在の自動車にあったカリキュラムを実践するとともに、国土交通省の指針にある基礎実習も確実に。学生の理解を単元毎に試験またはレポートを行うことで確認するとともに評価を行い、前期及び後期末時には、担当者による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例

科目名	科目概要	連携企業等
自動車整備作業	エンジン点検、分解、組立、調整、検査	クレモント

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

(目的)進化したアフターサービスの安全環境への取り組みの理解

(概要)スポット溶接、ボディアライニング、アライメント、衝突被害軽減ブレーキ、診断関連の現状及び問題点

(受講者)教員2名

2. マツダSKYACTIV技術セミナー

(目的)マツダの自動車開発及び技術の理解

(概要)車両開発部門:人馬一体の走りに関する開発及び新技術について

デザイン部門:マツダデザインの挑戦について

マツダ販売会社:風土改革への取り組みについて

(受講者)教員1名

3. いすゞ販売会社研修

(目的)大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握

(概要)技術:コモンレール、エアブレーキ

整備設備:工場見学

(受講者)教員1名

4. 日産技術講習会

(目的)日産の技術理解

(概要)日産先進技術に関する講習(パーキングアシスト等)

日産EV技術に関する講習

(受講者)教員1名

②指導力の修得・向上のための研修等

1. アドラー心理学

(目的)アドラー心理学活用による退学防止策とクラス経営術

(概要)アドラー心理概要、教師がつくる楽しい学習環境、カウンセリングマインド、やる気を引き出す勇気付けの理論と技法

(受講者)1名

2. 新任教員研修

(目的)①麻生塾の概要を理解し、自分の果たす役割を明確にする

②麻生塾のクラス運営、授業法を理解する

③同期入社間の交流を図る

(概要)学校概要、学内ルール、業務内容、授業法など

(受講者)教員2名

3. ハーバード流 退学防止とクラス運営術研修

(目的)退学防止とクラス運営

(概要)界で最も「成功」と「幸せ」について考えてきたハーバード大学の研究から構想された「幸せになる技術」を基に、学生の退学防止とクラス運営方法を学ぶ

(受講者)教員1名

4. 経営改革・教育改革研修

(目的)本研修では、専門学校特化型のアクティブ・ラーニング手法を用いた具体的な経営改革・教育改革の研修

(概要)「将来にわたり発展していくために学校改革の方向は、どこに向かうべきなのか」

「教職員の意識を変革しモチベーションを高めるためには」

「卒業生の評価を高める教育改革はどのように進めれば良いのか」

「国家資格の取得率を高めるアクティブ・ラーニング手法とは」「すぐ実践でき効果の高い教育改革とは何か」

「入学した学生の意識を変えるためには」「退学を止めるためには」

「募集力を高めるオープンキャンパスとは」「新たな学校種である専門職大学はどうしたら良いか」など

(受講者)教員2名

5. 心理療法カウンセリング講座
 (目的) ネットトラブルへの対応
 (概要) いじめ、不登校、ネットトラブルの学校や家庭での対応
 (受講者) 教員1名

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

1. バンザイ研修

(目的) 最新の整備技術、機器類について
 (概要) 未定

2. 福岡トヨタ技術研修会

(目的) トヨタ車の技術、安全作業、新型車
 (概要) 未定

3. いすゞ販売会社研修

(目的) 大型車の技術の理解及び大型車整備の現状把握
 (概要) 技術: コモンレール、エアブレーキ
 整備設備: 工場見学

(受講者) 教員1名

② 指導力の修得・向上のための研修等

1. 教育コーチング研修

(目的) 教員の教育力向上と学校運営力の向上
 (概要) コーチングを実践できるまでのスキルトレーニングとコーチングのポイントを学習し、深い学びにつながるアクティブラーニングを支える対話力のスキルトレーニング

2. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修

(目的) クラス運営
 (概要) 学生への話し方、指導の仕方、グループ作りの手法、雰囲気作りについて学ぶ。1対多と1対1での話し方の違い、どういふケースにどちらが効果的かを学ぶ。

3. 麻生塾スキルアッププログラム 基本研修

(目的) 学則・学内規定
 (概要) 担当の学校の学則の内容を確認し、留意点を学ぶ。学則を基本とした各種学内規定について知識を深める。生活指導面、就職指導、成績評価、学内文書など。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正におこなわれているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりをおこなう。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規定通りに運営しているか。
(3) 教育活動	・学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みをしているか。 ・教授学習プロセスの改善および教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか
(4) 学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度および成果を評価・公表しているか。
(5) 学生支援	・学生支援体制を整備し、支援を組織的に行なっているか。 ・卒業生等に対する支援を行なっているか。
(6) 教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集活動を適正に行ない、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8) 財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行なっているか。

(9)法令等の遵守	・学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為にシステムが構築がされているか
(10)社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取り組みが推進されているか
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

1. 保護者会
(評価結果)三者面談方式での実施は有効
(活用状況)継続実施
2. 授業アンケート
(評価結果)アンケート結果に対し、主任と本人で共有コメント記入は有効
(活用状況)継続実施
3. チュータ制度
(評価結果)ベテラン教員によるチュータ制度は有効
(活用状況)継続実施

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
堤直樹	福岡トヨタ自動車株式会社	H28.8.1～H30.7.31	企業
市川利治	福岡トヨタ自動車株式会社	H27.11.1～H29.10.31	企業
藤田一	ダイハツ工業株式会社	H29.6.1～H31.5.31	企業
時松真秀子	平成23年度卒業生	H27.11.1～H29.10.31	卒業生
杉本誠	平成22年度卒業生	H28.6.1～H30.5.31	卒業生
林紀子	1級自動車整備科在校生保護者	H27.11.1～H29.10.31	保護者
村上伸二	東比恵2丁目町内会	H27.11.1～H29.10.31	地域住民
大和豊	学校法人筑紫台学園 筑紫台高等学校	H27.11.1～H29.10.31	高等学校
下村輝夫	ものづくり人材育成センター	H28.6.1～H30.5.31	団体

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・8月
公表方法: <http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>
公表時期: 8月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
より実践的な職業教育の質を確保するため、教育活動の観察や意見交換等を通じて、教育活動及び学校運営の状況についての自己評価の結果を踏まえた評価を行い、その結果を校長に報告する。校長は、その結果を踏まえ、教育活動及び学校運営の改善を図る。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組
(2)各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験・検定実績、内定実績
(3)教職員	教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート
(5)様々な教育活動・教育環境	年間行事、部活動・サークル活動
(6)学生の生活支援	学生寮、海外交流センター、プラスα制度
(7)学生納付金・修学支援	学費について、特待生制度、学費分割納入制度、兄弟姉妹・親子入学奨学金、日本学生支援機構奨学金制度
(8)学校の財務	財務情報
(9)学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会評価報告書
(10)国際連携の状況	海外教育機関との連携、海外提携校、出願資格、出願書類、選考方法、入学手続き、校納金特別免除制度
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

学校法人 麻生塾 URL: <http://www.asojuku.ac.jp>
専門学校麻生工科自動車大学校 URL: <http://www.asojuku.ac.jp/acet/>

授業科目等の概要

(工業専門課程 2 級自動車整備科) 平成 2 9 年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			基礎自動車整備	整備の基礎知識、基本作業、測定作業、点検用機械工具	1 通	32	2	○			○		○	○		
○			ガソリンエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置燃料装置、吸排気装置、電気装置	1 通	77	5	○			○			○	○	
○			ジーゼルエンジン構造	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置	1 後	32	2	○			○			○		
○			シャシ構造	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1 通	77	5	○			○			○	○	
○			電装構造	電気回路、オームの法則、電気、電子についての基礎、半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置	1 通	78	5	○			○			○	○	
○			二輪自動車	エンジン、シャシ、電気装置、点検整備	1 後	15	1	○			○			○		
○			材料・燃料・油脂	自動車に使われている材料についての種類、性質、特性、燃料、油脂の内容、潤滑及び潤滑油、作動油の内容	1 前	15	1	○			○			○		
○			数学 I	単位、基礎的な原理・法則、自動車の諸元、電気の基礎	1 後	19	1	○			○			○		
○			数学 II	単位、高度な原理・法則、自動車の諸元、電気の応用（応用編）	2 前	16	1	○			○			○		
○			法規・検査 I	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	1 後	15	1	○			○			○		
○			法規・検査 II	道路運送車両法、道路運送車両の保安基準、道路運送車両の保安基準の細目を定める告示	2 通	31	2	○			○			○		

○		ガソリンエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	63	4	○			○		○	○
○		ディーゼルエンジン	エンジン本体、潤滑装置、冷却装置、燃料装置、吸排気装置、電気装置、故障原因探求	2通	48	3	○			○		○	
○		シャシ	動力伝達、アクスル、サスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー、故障原因探求	2通	63	4	○			○		○	○
○		電装	エンジン、シャシ電気装置、始動装置、充電装置、点火装置、故障原因探求	2通	49	3	○			○		○	○
○		マナー	企業アプローチ、面接試験対策	1前	15	1	○			○		○	
○		就職実務Ⅰ	就職環境を知ろう、キャリアプランニング、業界研究、自己表現、筆記試験対策、「協働」の態度を持った学生生活、グローバルシティズンとしての日常・目標・「志」に向けて	1通	90	6	○			○		○	
○		就職実務Ⅱ	グローバルシティズンと志、なぜ志を立てることが大切なのか、自己を知る、伝える力を学ぶ、先人の志に学ぶ、成功者の考え方に学ぶ、テーブルマナー	2後	30	2	○			○		○	
○		基礎実習	手仕上げ工作、機械工作、基本測定実習	1前	120	3				○	○	○	○
○		エンジン整備実習Ⅰ	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	1通	170	4				○	○	○	○
○		シャシ整備実習Ⅰ	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	1通	166	4				○	○	○	
○		電装整備実習Ⅰ	始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウォッシャー、エアコン、電気装置の配線	1通	174	4				○	○	○	
○		エンジン整備実習Ⅱ	エンジン本体、シリンダヘッド、シリンダブロック、ピストン、コンロッド、クランクシャフト、フライホイール、バルブ、カムシャフト	2通	174	4				○	○	○	○
○		シャシ整備実習Ⅱ	動力伝達装置、アクスル及びサスペンション、ステアリング装置、ホイール及びタイヤ、ホイールアライメント、ブレーキ装置、フレーム及びボデー	2通	160	3				○	○	○	
○		電装整備実習Ⅱ	半導体、バッテリー、始動装置、充電装置、点火装置、電子制御装置、灯火装置、計器、ホーン、ワイパ、ウォッシャー、エアコン、電気装置の配線	2通	174	4				○	○	○	

○		故障原因探求	ガソリンエンジン故障原因探求、ジーゼルエンジン故障原因探求、シャシ故障原因探求、電装故障原因探求	2 後	62	1			○	○	○		
○		自動車検査作業	道路運送車両法等の改正の概要、定期点検の実施時期、点検整備記録簿、自動車メーカーが指定する点検整備	2 後	60	1			○	○	○		
合計				27 科目			2025 単位時間 (77 単位)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
(卒業要件)履修すべき全授業科目に合格していること。出席日数が出席すべき日数の90%以上であること。国土交通省の定める規定の時間を満たしていること。(履修方法)各授業科目の総授業時間数の3分の2以上出席し、C評価以上の評価を取得することで、当該科目を履修したことを認める。		1 学年の学期区分	2 期
		1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。